

くすりのしおり

内服剤

2024 年 10 月作成

薬には効果（ベネフィット）だけでなく副作用（リスク）があります。副作用をなるべく抑え、効果を最大限に引き出すことが大切です。そのために、この薬を使用される患者さんの理解と協力が必要です。

製品名：イーシー・ドパール配合錠

主成分：レボドパ (Levodopa)

ベンセラジド塩酸塩 (Benserazide hydrochloride)

剤形：淡赤色の錠剤、直径 9.1mm、厚さ 3.5mm

シート記載など：KH108、イーシー・ドパール配合錠、EC-Dopar1



この薬の作用と効果について

本剤の主成分レボドパは、吸収された後に脳内へ入り、ドパミンに変換されます。配合されているベンセラジド塩酸塩は血液中レボドパ濃度を高め、レボドパの脳内移行を高めます。

脳内のドパミン不足によって、手足や口などのふるえ、筋肉のこわばり、歩行困難、無表情などのパーキンソン症状が発現します。

通常、脳内のドパミン不足を補うことにより、パーキンソン病、パーキンソン症候群の治療に用いられます。

次のような方は注意が必要な場合があります。必ず担当の医師や薬剤師に伝えてください。

- ・以前に薬や食べ物で、かゆみ、発疹などのアレルギー症状が出たことがある。閉塞隅角緑内障がある。
- ・妊娠または授乳中
- ・他に薬などを使っている（お互いに作用を強めたり、弱めたりする可能性もありますので、他に使用中の一般用医薬品や食品も含めて注意してください）。

用法・用量（この薬の使い方）

- ・あなたの用法・用量は（：医療担当者記入）
- ・レボドパ未投与例：通常、成人は初回 1 日量 1～3 錠を 1～3 回に分けて食後に服用し、2～3 日ごとに 1 日量 1～2 錠ずつ増やし、維持量として 1 日 3～6 錠を服用します。
- ・レボドパ既投与例：通常、成人は初回 1 日量として、投与中のレボドパ量の約 1/5 に相当する量（本剤は 1 錠中にレボドパ 100mg を含む）を 1～3 回に分けて食後に服用し、少しずつ量を増やすあるいは減らして、維持量として 1 日量 3～6 錠を服用します。
- ・いずれの場合も、年齢・症状により適宜増減されます。必ず指示された服用方法に従ってください。
- ・飲み忘れた場合は、気がついた時点で 1 回分を飲んでください。ただし、次の服用時間が近い場合には飲まないで、次の通常の服用時間に 1 回分を飲んでください。絶対に 2 回分を一度に飲んではいけません。
- ・誤って多く飲んだ場合は医師または薬剤師に相談してください。
- ・医師の指示なしに、飲むのを止めないでください。

生活上の注意

- ・前兆のない突発的睡眠、傾眠（眠気でぼんやりする）、注意力や反射機能などが低下することがありますので、自動車の運転や危険な作業は避けてください。
- ・ごくまれですが、唾液・痰・口腔内粘膜・汗・尿・便などの色が黒くなる場合があります。

この薬を使ったあと気をつけていただくこと（副作用）

主な副作用として、不随意運動（顔面、口、頸部、四肢など）、吐き気、幻覚などが報告されています。このような症状に気づいたら、担当の医師または薬剤師に相談してください。

まれに下記のような症状があらわれ、[]内に示した副作用の初期症状である可能性があります。

このような場合には、使用をやめて、すぐに医師の診療を受けてください。

- ・高熱、体のこわばり、手足のふるえ〔悪性症候群〕
- ・実際には存在しないものを存在するかのようを感じる、気分がゆううつになる・思考力の低下、行動にまとまりがない〔幻覚、抑うつ、錯乱〕
- ・出血が止まりにくい、体がだるい、皮膚や白目が黄色くなる〔溶血性貧血、血小板減少〕
- ・突然の耐えがたい眠気〔突発的睡眠〕
- ・頭痛、眼の痛み、視力の低下〔閉塞隅角緑内障〕

以上の副作用はすべてを記載したものではありません。上記以外でも気になる症状が出た場合は、医師または薬剤師に相談してください。

保管方法 その他

- ・乳幼児、小児の手の届かないところで、高温、湿気を避けて光の当たらない場所で保管してください。
- ・薬が残った場合、保管しないで廃棄してください。廃棄方法がわからない場合は受け取った薬局や医療機関に相談してください。他の人に渡さないでください。
- ・〔ご家族の方へ〕社会的に不利な結果を招くにもかかわらずギャンブルや過剰で無計画な買い物を繰り返したり、性欲や食欲が病的に亢進するなど、衝動が抑えられない症状があらわれることがありますので、

これらの症状があらわれた場合には医師に相談してください。

医療担当者記入欄

年 月 日

より詳細な情報を望まれる場合は、担当の医師または薬剤師におたずねください。また、「患者向医薬品ガイド」、医療関係者向けの「添付文書情報」が医薬品医療機器総合機構のホームページに掲載されています。

SI①